

## 平成3年度演習林年報

<https://doi.org/10.15017/18585>

---

出版情報：年報（九州大学農学部演習林年報）。1991, 1992-09-30. 九州大学農学部附属演習林  
バージョン：  
権利関係：

## 演習林本部の移転構想について

1991年10月22日の九州大学評議会で「九州大学新キャンパス移転構想」が承認され、福岡市西区「元岡・桑原」地区への移転が本格的に推進されることになった。一方演習林においてはすでに演習林本部の粕屋地方演習林への移転が構想されていた。これは現在の箱崎キャンパスは動かないものとしての構想であったが、このような状況の変化は本部移転について再検討するの必要を生じさせた。演習林本部の粕屋地方演習林移転構想が生まれた背景には 1. 教官の集中配置による研究部組織の活性化 2. フィールドと密着した研究の活性化 3. 定員削減により弱体化した管理組織とくに技官組織の改編・充実等が挙げられる。これらの問題点を含めてあらためて、演習林は九州大学の「元岡・桑原」地区への移転には参加せず、従来の構想通り演習林本部を粕屋地方演習林に移転し、本部研究・事務組織を粕屋地方演習林と統合するという方針が教官会議、演習林運営委員会、審議会等において検討・審議された。この過程でいくつかの疑義がだされた。新キャンパスの「元岡」と「粕屋」とでは距離的に離れすぎており、主たるメンバーとして参加することになっている大学院教育に責任がもてるのか、果たして院生が来るのか、教官の研究にデメリットは生じないかなど、それは主に大学院改組と関連したものであった。

ところで演習林は林学に関する学科の教育・研究に必要な施設として農学部に設置された附属施設であり、その所有する森林はつねに最善の状態に管理され、教育・研究に供されることが求められる。演習林所属の教官は当然その森林の管理運営に責任があり、その研究もフィールドと密着したものが求められる。演習林が目指す森林系制御システム学にあってもフィールドを用いた教育・研究が不可欠であり、これをより一層魅力的なものとして発展させるのがさきに移転構想審議過程でだされた問題点に対応できる最善の道の1つであると考えられる。したがって演習林教官はつねにこのような意識をもって演習林の管理運営と教育・研究にあたるべきであると考えられる。

1992年 8 月

研究部長 汰 木 達 郎